

ヤングボランティアサミット 開催記録

平成 23 年 1 月

警察庁生活安全局生活安全企画課

目 次

挨拶

砂川警察庁生活安全企画課長あいさつ	1
-------------------	---

検討結果発

テーマ① 大学生等が行うべき自主防犯活動	2
----------------------	---

〔発表者〕

V. O. Y. S (ボランティア オブ ヤマガチ セーフティ)	【山 口 県】	中村 彩
北海道大学生等ボランティアネットワーク	【北 海 道】	池田 翔
神奈川防犯シーガル隊	【神奈川県】	長尾 真弓

テーマ② 若者の規範意識を高めるための効果的な活動方策	10
-----------------------------	----

〔発表者〕

学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」	【京 都 府】	西田 将也
ピーポーズ	【東 京 都】	吉橋 香朱実
ブルー・スターズ	【千 葉 県】	田村 聡奈

テーマ③ 自主防犯活動への若者の参加促進を図るための効果的な活動方策	18
------------------------------------	----

〔発表者〕

C r i p p e r s (クリッパーズ)	【埼 玉 県】	榎本 亮太
大阪学生ボランティアネットワーク「みつくす」	【大 阪 府】	川名 早貴
鼓舞楽団浦風パトロール隊	【沖 縄 県】	加藤 伸佳

講 評

赤松警察庁生活安全企画課都市防犯対策官講評	24
-----------------------	----

紹 介

検討団体プロフィール	27
------------	----

ヤングボランティアサミット開催

ただ今から、ヤングボランティアサミットを開催いたします。

私は、司会を務めさせていただきます警察庁生活安全企画課菊澤でございます。

まず初めに、主催者を代表いたしまして生活安全局生活安全企画課長の砂川よりごあいさつ申し上げます。



警察庁生活安全企画課 砂川課長あいさつ



警察庁生活安全企画課長の砂川でございます。

今日は、多くの皆様に集まっていただきまして、ありがとうございます。

このヤングボランティアサミットは、今回初めての開催となります。この経緯につきまして若干ご説明をいたしますと、ここ数年、防犯ボランティア活動は大変活発になってきました。平成21年末時点で、約4万3,000団体、約260万人の人々がこの活動に携わっていただいております。ただ、構成員の平均年齢が60歳以上の団体が過半数、約6割を占めております。逆に20歳代以下の団体というのは1%にも満たないという状況でありまして、防犯ボランティア活動を今後も継続していくためには、若い世代の人たちに参加していただくということが大きな課題になっております。そこで、昨年、各都道府県におきまして、大学生を中心とする若い世代の皆さんに活動に参加していただくということで、働きかけました。

今日のヤングボランティアサミットでは、すでに分科会が先程開催されまして、私も拝見させていただきました。非常に活発に意見交換をしていただきまして、頼もしく感じた次第でございます。是非、これをきっかけにさせていただいて、都道府県の枠を越えて連携を深めて、この活動をさらに活発にさせていただくことを期待しております。

最近、世の中では、地域社会の連帯感、あるいは絆というものが弱まっていると言われております。ただ、人は誰でも「誰か他の人の役に立ちたい」、「世の中のために何かしたい」という気持ちを持っております。今話題になっておりますタイガーマスクを名乗る人たちによる善意の贈り物なども、そういった気持ちの表れだろうと思っております。そして、皆さんのボランティア活動も、きっかけは色々あると思いますが、やはり誰か他の人のためになる、世の中のためになるという行為であります。犯罪被害に遭って泣く人を少しでも減らすということに、皆さんの活動は貢献するわけでありまして、その意味では、タイガーマスクを名乗る人たちが善意の贈り物をする行為と同じ、あるいは勝るとも劣らないほど立派な、賞賛されるべき行為だと思っております。皆さんの活動は、まわりの若い人たち、さらには子どもたちにもいい影響を及ぼすと思っております。何よりも皆さん自身が、この活動をしていくことによって人間として成長していく、そして豊かな人生を送るということにもつながっていくものと思っております。是非、このボランティア精神をこれからも持ち続けていただいて、豊かな人生を送っていただければと思っております。

今日のヤングボランティアサミットが、皆さんにとって有意義なものとなるよう、心から祈念して、私のあいさつとさせていただきます。

テーマ①「大学生等が行うべき自主防犯活動」

検討団体(16 団体)

- 北海道大学生等ボランティアネットワーク 【北海道】
- 昌平パトロール隊 【福島県】
- V. P. I(ボランティア パトロール イバラキ) 【茨城県】
- 神奈川防犯シーガル隊 【神奈川県】
- 新潟地域防犯ボランティア 【新潟県】
- 信濃地域安全学生見守り隊 【長野県】
- しずおか・ぴーす 【静岡県】
- とやま・シーピース(CPS) 【富山県】
- 石川ユニバーシティーズ防犯プロジェクト 【石川県】
- めぐる 【岐阜県】
- 三重中勢ブロックヤングボランティアチーム 【三重県】
- あっぷりけ戦隊！奈良まもりたい 【奈良県】
- 松江地区学生防犯ボランティアネットワーク 【島根県】
- V. O. Y. S(ボランティア オブ ヤマグチ セーフティ) 【山口県】
- さぬきヤンボラ守るんジャー 【香川県】
- 宮崎ヤングボランティア協議会 【宮崎県】

検討結果発表

[発表者]

- | | | |
|-------------------------------------|---------|-------|
| ◇ V. O. Y. S (ボランティア オブ ヤマガチ セーフティ) | 【山 口 県】 | 中村 彩 |
| ◇ 北海道大学生等ボランティアネットワーク | 【北 海 道】 | 池田 翔 |
| ◇ 神奈川防犯シーガル隊 | 【神奈川県】 | 長尾 真弓 |



私たち1班は、大学生等が行なうべき自主防犯活動について「自転車、バイクに関する防犯活動」と「パトロール等の防犯活動」の2点について検討いたしました。

自転車、バイクに関する防犯活動

まず、私から、自転車、バイクに関する防犯活動について検討した結果を発表いたします。

大学生が自転車を利用する際の問題点としては、無施錠、放置駐車、無灯火、二人乗り、傘差し運転、音楽を聴きながらの運転があります。

このうち、

- * 自転車の無施錠
- * 自転車の放置駐車

が、犯罪被害を防ぐための問題点です。

また、

- * 無灯火
- * 二人乗り
- * 傘差し運転
- * 音楽を聴きながらの運転

が、交通安全にもつながる問題点と考えました。

次に各都道府県で行っている、自転車、バイクに関する防犯活動の事例を紹介いたします。

三重県では、盗難防止のため「ツーロック」をすることを呼びかけています。また、仲間を誘ってチラシ配りを行い、防犯意識を高める活動も行っています。

奈良県は、駐輪場に青色防犯灯の設置を広め、犯罪抑止に努めていくという活動を行っています。青色は「落ち着く色」などと言われており、一部では、盗みをしようとする人の意欲を減退させる効果があるとも言われています。

石川県では「リンリンマナーアップキャンペーン」と銘打ち、月2回程度、自転車の盗難防止と鍵かけの呼びかけ、ティッシュ配りを行っています。また、学内の駐輪場においても、大学生に対する「ツーロック」の呼びかけを行っています。

岐阜県では、駐輪中の自転車の防犯登録やツーロックの有無等を確認し、チェックシートを貼るなどの活動を行っています。この活動は、自転車の使用者の防犯意識を高める効果を狙っています。

これらの事例を踏まえ、先に述べた問題点を解決する方法を検討しました。

1つ目は「呼びかけ」、2つ目は「多様な視点から考える」です。

「呼びかけ」についてですが、大学生が大学生に呼びかける際、ポスター等を貼ることはもちろんですが、寸劇を利用するなど、「楽しく、愛らしく、見やすく、つけやすく、学びやすく」の5点を意識して防犯活動を行うことで、大学生の防犯意識が高められるのではないかと考えました。

「多様な視点から考える」については、被害者側からだけではなく、これから盗もうとしている人、つまり、加害者になろうとしている側の視点からも考えて、防犯活動を検討するという事です。例えば、ポスターの場合、目の前に防犯ポスターがあれば、盗みにくくなりますので、視覚に訴える防犯活動が効果的ではないかと考えました。また、防犯カメラを設置することで、これから盗もうとしている人に、「見られている」という意識を持たせることができ、盗もうとする気持ちを変えることができると考えました。

ほかのアイデアとしては、先ほどの5箇条が記載された大学生防犯ボランティア共通のシンボルマークをつくることで、より多くの人に、防犯意識を持ってもらえるのではないかと考えました。

自転車、バイクに関する防犯活動については以上です。

パトロール等の防犯活動

ここからは、2つ目のパトロール等の防犯活動について発表を行っていきたいと思います。私たちが検討した内容をまとめますと、防犯パトロール活動は、主に3つに分けられます。1つ目が「子ども見守り活動」、2つ目が先ほど発表のあった「大学生等を対象とした自転車盗難などの防犯活動」、3つ目が「高齢者を対象とした防犯活動」です。

【子どもの見守り活動等】

まず、子ども見守り活動についてですが、大学生が活動を行うことによって、どのような

利点があるのかということを考えてみました。

最も大きな利点は、「地域の活性化」ということです。子どもの見守り活動を行うことによって、これまで接点のなかった子どもの保護者や地域の方々とあいさつを交わしたり、話をするできるようになります。子どもから見ると、「大学生が見守ってくれているんだ」という安心感を与えることができ、地域の活性化につながります。



また、教職を目指している人などは、子どもの見守り活動を行う中で、日頃の実習等とは違う、子どもの実態を見ることができるという意見もあがりました。

防犯パトロール等の活動に大学生の参加を促すための問題点についても考えてみました。

大学生の参加を促すためには、服装の工夫を考えなくてはなりません。チョッキ、腕章等、デザイン的に大学生にはつけづらい物があります。また、「防犯ステッカーも可愛いデザインに変更する」、「地域住民や他の防犯ボランティア団体、警察の方等と協力し合う」などの意見もあがりました。

大学生による防犯パトロール等の活動を広めていくためにはどのようなことが必要かを考えてみました。意見としては、「ノルマをつくる」、「後継者の育成」、「時間をつくる」などがあがりました。

「ノルマをつくる」とは、防犯ボランティア活動への参加は、現在活動している人が友だちを誘う場合が多いことから、誘う人数にノルマを設けてはどうかというものです。「時間をつくる」とは、活動内容の広報のための時間をつくるということです。

ノルマについてですが、先ほど生活安全企画課長さんのごあいさつの中で、タイガーマスクの話が出ましたように、「誰かのために何かしたい」「世の中のために何かしたい」という気持ちを持っている大学生は多いのではないかと思います。その気持ちを実行に移す方法の1つとして、防犯ボランティア活動を紹介し、活動がタイガーマスク運動のように連鎖的に広がっていけば理想的ではないかと思います。そのためには、活動に気軽に参加してもらい、無理なくできる活動であることを認識してもらうことが必要です。

また、「楽しい」をアピールして興味を持ってもらうことも重要です。

山口県で防犯パトロールのアンケートをとった結果、「危ない」、「時間がとれない」などの意見がありました。そういった話を聞き、「防犯活動すると、楽しいことがありますよ」とアピールすることが大切なのではないかと考えました。「色々な友だちが増えますよ」、「子どもの見守り活動を行えば、子どもと親しくなれますよ」などの楽しい部分をアピールして、大

学生に興味を持ってもらうことが大切であり、その結果、参加人数も増えていくことにつながっていくと考えました。

次に「デザインを工夫する」です。先ほどもお話しましたが、大学生が興味を持てるような服装、携行品のデザインにしていくことが重要です。神奈川県では、メンバーの方が、一日女性警察官の服装で、活動を行ったという話を伺いました。そのような服装は、普段もちろんできませんので、楽しみの一環として取り入れてみたらいいのかもしれない。

最後に「時間をつくる」という点です。防犯活動を行っていても、活動が周囲に理解されていなかったり、知られていなければ、参加してくれる人はいません。そこで、ゼミの終りの残り5分の時間をもらい、ゼミのみんなに活動内容を広報するなど、大学生が必ず集まる場所で、活動の広報を行ってはどうかという意見が出ました。また、看板などを作成し、目につきやすいところに掲示するのもひとつの広報として効果的だと考えます。

【高齢者を対象とした防犯活動】

次に、高齢者を対象とした防犯活動について、北海道の事例のお話させていただきたいと思います。

私たち北海道大学生等ボランティアネットワークは、札幌等の9大学が集まって組織され



ております。私たちが行っている高齢者の方を対象とした活動は、福祉除雪プロジェクトというもので、高齢者宅の雪かきを行うというボランティア活動です。

雪が降らない地方の方もいらっしゃいますので、簡単にご説明いたしますと、雪には重い雪、軽い雪というものがあります。この重い雪を高齢者の方が運べるかと言いますと、とても重労働であり、雪かきのできない高齢者の方が大変多くなっております。私たち学生ボランティアは、こうした高齢者の方を助けるため、除雪作業を手伝っているのです。ジャンパー、ヘルメット姿で、とても格好がいいとはいえません。放課後の活動もありますので、頭にはヘッドライトをつけて活動しております。作業の流れとしましては、高齢者の方から電話で依頼を受け、学生自ら、高齢者宅に伺って、申込書を書いてもらいます。

犯罪防止と除雪がどのような関係にあるかと言いますと、私たちは、北海道警察と連携し、高齢者宅を訪問した際、振り込め詐欺被害防止等の犯罪被害防止や交通事故防止のチラシ等を高齢者の方に直接手渡ししております。

高齢者の方には、本当の孫のように接してもらっており、長いところでは、2、3時間話すこともありまして、私たち学生ボランティアも高齢者の方に自然と親近感がわいています。雪の降らない時期でも、引越し作業、独居老人宅の車庫のペンキ塗りなど色々なボランティ

ア活動を行っております。

自分たちの肉親との付き合いも希薄な時代ですが、ボランティア活動を通じて高齢者の方とコミュニケーションをとる機会を得たことは、私たちにとって大きな影響があったと考えております。就職活動の際も自信を持って話をできる活動だと自負しております。

高齢者の方も、私たちが話をしますと大変よろこんでくれます。この活動は3年目になりますが、今後ともこの活動を続け、高齢者との信頼関係を築ければと考えております。

最後に、大学生等が自主防犯活動を行う上で、大切だと思うことを3点、お話したいと思います。

1つ目は、「地域の特色にあった活動を行う」です。

先ほど発表のあった北海道の事例にもありますように、その県、その地域によって、問題となっていることがあると思います。例えば、山口では、学生がとても多く、その殆どが自転車を利用しているため、自転車の盗難防止等の防犯活動を行っています。効果的な防犯活動を行うためには、地域の特色や問題を把握し、それに対応した防犯活動を行うことが重要だと思います。

2つ目は、「活動内容の広報を行う」です。

私たちの活動を大学生に広めていく、後輩に引き継いでいくためには、どのような活動をしているかを積極的に広報していく必要があります。また、防犯活動を地域全体の活動として活性化していくためには、地域の方々や高齢者の方々にも広報していく必要があります。

3つ目は、「大学生同士で連携を持つ」です。

防犯ボランティア活動を行っている全国の大学生等が一堂に会して、このように議論を行う場というものは少ないと思います。今回学んだことを各都道府県に持ち帰るとともに、今回集まった大学生防犯ボランティアの方々とネットワークを築き、今後の活動に活かしていくことが重要だと思います。

今回の検討では、具体的な自主防犯活動の内容までは話が及びませんでした。私たち1班は、この3点を大切にしながら、自主防犯活動を行っていこうと考えております。

以上で、1班の発表を終わります。



- 司会 只今の発表につきまして、何か質問はございますか？
- 質問 大学生等の防犯意識を高めるための5つのポイントについて再度、確認したいのですが？
- 回答 「楽しく、愛らしく、見やすく、つけやすく、学びやすく」です。
- 質問 活動を継続させるための工夫についてですが、ロックモンキーズでは、先ほどお話しがあった楽しさを追求するため、京都という土地柄もあるのですが、おいしいお菓子の店を探したり、もみじの時期にきれいなところを探したり、観光を兼ねながら防犯パトロールをしております。啓発活動に関しては、京都で有名な西陣織の着物を着て防犯活動をするなど、その土地にあった啓発活動も行っております。こうした活動も参考にいただければと思います。



テーマ②「若者の規範意識を高めるための効果的な活動方策」

検討団体(15 団体)

- Aomori Public Peace Maker 【青森県】
- 花巻ハンズ to ハンズ 【岩手県】
- AVA(秋田ボランティア活動) 【秋田県】
- ピーポーズ 【東京都】
- 栃木まもろーが 【栃木県】
- ブルー・スターズ 【千葉県】
- やまなし守り隊 【山梨県】
- 福井県防犯ボランティアパトロール隊 【福井県】
- 学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」 【京都府】
- ひごの守 【兵庫県】
- きのくにまもり隊 【和歌山県】
- Peace Of Tokushima 【徳島県】
- ヤンガライズ 【長崎県】
- 防犯若武者ベアーズ 【熊本県】
- 大分大学防犯パトロール隊 【大分県】

検討結果発表

[発表者]

- | | | |
|------------------------|-------|--------|
| ◇ 学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」 | 【京都府】 | 西田 将也 |
| ◇ ピーポーズ | 【東京都】 | 吉橋 香朱実 |
| ◇ ブルー・スターズ | 【千葉県】 | 田村 聡奈 |



私たち2班は、若者の規範意識を高めるための効果的な活動方策についてお話させていただきたいと思います。

若者の規範意識と低下の背景

まず、私たち若者が規範意識をどのように捉えているのか、若者の規範意識はどうなっているのかなどについて検討した内容をお話していきたいと思います。

駅前や道路でゴミをポイ捨てしたり、夜中にコンビニや公園に意味もなくたむろして、何をやるわけでもなくタバコを吸ったり、お酒を飲んだりして風紀を乱している若者をよく見ます。

最近の若者は、犯罪が格好いいと思っている人もおり、悪いことをしているのに悪いことだと自覚しないで、「俺、格好いい」などと思っている人がいます。また、そのような状況を親の世代や大人の方々も見て見ぬふりをして、注意しなくなっています。注意されないので子どもたちや、若者は、悪いことをしているという自覚が薄く、さらにエスカレートして悪いことをしていくという悪循環を繰り返し、規範意識がさらに低くなってしまっているのではないかと思います。

こうした環境の悪化が、規範意識の低下の原因の第1にあげられると思います。環境の悪化というのは、ゴミのポイ捨てを誰も注意しないような環境や、環境美化活動等を進んで行う習慣がない環境です。

では、環境の悪化というものをどのようにして防ぐのか、そして若者にどのように規範意識を高めてもらうのかといった点についてお話しします。

規範意識を高めるための直接的な方法

主な改善策としては、フリーペーパーをつくり、その中に若者の規範意識を高める内容や悪いことをしている若者に注意することを呼びかける内容を盛り込んで、配布するという方法を考えています。例えば、都道府県別の各種犯罪発生ランキングを掲載すれば、その都道府県の人たちは問題意識や危機意識を持ち、改善を図るのではないかと考えました。意識付けを行うには有効な方法ではないかと考えています。

その他には、パトロールしている地域の安全マップを作成し、掲示するという意見がありました。若者だけでなく、年配の方々にも注意を促せます。子どもたちと協働で作成すれば、子どもたちは楽しみながら危険な場所を学んだり、防犯活動に自然に親しむことができるのではないかと考えています。

活動を通じて規範意識を高めるためには、なるべく多くの大学生に気軽に、楽しく活動に参加してもらうことが必要だということから、ゴミを拾いながらパトロールをしたり、観光をしながらパトロールをしたりするなどの「ながら運動」も提案されました。

また、今までのポスターは、ひたくり防止など、分かりやすく書かれているのですが、若者の目を引かないものが多く、情報量も少ないため、QRコードを掲載したポスターを作成するなどして、効果的な啓発活動に努めたいという意見がありました。

さらに、今までの広報啓発方法では、若者の目を引くことが難しいため、若者の規範意識を高めるためには、若者の目を引くための色々な工夫が必要ではないかという意見が多数出ました。

その中で、「漫画を作成して配布する」という意見がありました。内容については、「どういったところで犯罪が発生しているか」、「どのような状況で犯罪が起こるのか」、逆に「犯罪を犯した者は、どのようになっていくのか」といったことをリアルに漫画にして、配布するというもので、若者に訴えやすい媒体ではないかと思います。

また、チラシ等の媒体以外にも、インターネットを利用したり、バナー広告というようなものを利用するなど、若者が使用する様々なツールを利用し、若者の目に常に入るようにすることで、規範意識を高めていくといったアイデアもありました。



環境の改善による規範意識の向上

こうした若者に直接的に訴えかけ、規範意識を高めていく活動のほかに、若者を取り巻く環境も変えていかななくてはならないといった意見もあがり、2つの方法が検討されました。

1つ目は、「若者だけでなく、年長者、私たちの親世代にあたる人たちにも規範意識を高めていただき、若者へも注意してもらおう」という意見。

2つ目は、「未来の若者、つまり今の子どもたちの規範意識を高めることによって、今後正しい行いをしていく大人になってもらおう」という意見です。

それでは、具体的な話をしていきます

親世代についてですが、時代の変化により、子どもたちや若者に対する躰が次第に甘くなってきているのではないのでしょうか。確かに、「注意をすると殺されてしまうかも知れない」と思うと何も言えなくなってしまう状況はあると思います。しかし、そうした状況を少しでも改善するために、悪いことをしている人に注意することを呼びかけるチラシ配りなどを行い、親世代に意識を改善してもらえればと考えています。

子どもに対する意識付けとしては、私たち大学生等が幼稚園や小学校に出向き、紙芝居等で「楽しく」、「分かりやすく」、防犯について教えてあげるのがいい方法ではないかと考えました。子どもに対しては、年上の人たちのように言葉だけではなく、楽しみながら体験してもらおうというのが一番いい方法だと考えました。子どもたちは素直なので、「ゴミ拾いしよう」と話をすると素直にゴミ拾いに参加したり、ちょっとしたことがきっかけとなって防犯パトロール等に参加してくれるので、参加しやすい入り口をつくってあげればと思っています。

私たちは、大人や子どもに対する啓発活動等を通して、社会全体の規範意識がよい環境へと循環していけばと考えております。

例えば、学生が防犯活動している姿を大人の方が見て、学生がこのように活動をしているのだから、自分たちもしっかりしなければと考えるきっかけになればよいと考えています。いわゆる「頑固親父」の魂に火をつけてもらえればと考えています。

子どもたちについては、将来、若者になっていく世代ですので、幼い頃から教育することで、高い規範意識を身に付けてもらおう。一方、大学生等には、子どもがきちんとしている姿を見て、自分たちのしていることが格好いいことかどうかを考え直す機会にさせていただければと考えています。

また、防犯ボランティア活動をしていくと、意識が変わったという意見を多く聞きました。体験してもらおうのが一番規範意識を高めることにつながるのではないと考えております。先ほどもお話したように、ゴミ拾いでも実際に自分でゴミ拾いをして始めて、今までゴミのポイ捨てしていたことが正しいのかどうか、格好のいいことなのかどうかを真剣に考える機会になるのではないかと思います。また、押し付けではなく、若者が自然に防犯活動に興味を持つよう、徐々に周りの環境や機会を整えることができればと考えています。

もう1つ、防犯ボランティア活動に実際参加してみて、活動のゴールが中々見えにくいといった意見もありました。高齢者の方や子どもたちなどから「ありがとう」とか、「お疲れ様」と言っただけだと、非常にやりがいも感じて、さらに次の活動に励もうという気持ちになるのではないかと意見も出ました。

活動に関しても私たち若者だけでなく、様々な世代と連携しながら活動していけばいいのではないかと意見も出ました。若者だけで活動してしまうと若者の価値観だけで行動してしまいます。様々な年代の方々、ベテランの防犯ボランティアの方々と一緒に活動することで、色々なアドバイスも得られますし、交流することで、様々な年代の方々との連帯意識が生まれ、若者の規範意識の向上につながっていくのではないかと考えました。

ベテランの防犯ボランティアだけでなく、中学生や小学生、幼稚園生等の子どもたちと一緒に、防犯パトロール活動やまちの美化運動、声かけ運動など行い、子どもたちに大人たちのがんばっている姿を見せることで、将来、高い規範意識を持った若者に育てることができるといった意見もありました。

若者の規範意識を高めるための効果的な活動方策について発表をすすめてまいりましたが、最後に、「そもそも規範意識とは何だろう？」ということを考える必要があるのではないかと思います。それぞれ、規範意識に対する考え方は違うかもしれませんが、「規範意識とは何だろう？」、「規範意識を高めるためにはどうすればいいのだろうか？」と考えること自体が、規範意識を高めるための第一歩ではないかと考えております。

1班だけでなく、2班、3班が分科会で検討した内容のいずれにも若者の規範意識を高め



るための方策が含まれていると思います。この3つの内容が全て揃ったとき、私たち若者の規範意識もさらに高めていくことができるのではないかと考えています。私たち学生防犯ボランティアは、これまで以上に様々なフィールドで多くの活動をして、若者ががんばっているという姿を、社会や周囲の人々

に見せていく必要があるのではないかと考えます。

以上で私たちの発表を終わります。

○ 司会 只今の発表につきまして、何か質問はございますか？

○ 質問 広島県内では、「減らそう犯罪、なくそう犯罪」に向けてアクションプランを策定させていただいていますが、その中に規範意識の話も出てきます。疑問に思った点を質問させていただきます。ゴミ、い集問題に関する規範意識の話が出ましたが、これらを防止することによってどのような効果が期待できるかという点。そして、これらを防止するための効果的な活動があれば教えてくださいたいと思います。また、児童の規範意識の向上を図るためには、具体的にどのようにすればよいでしょうか？



○ 回答 ゴミのポイ捨て、い集の件についてですが、「割れ窓理論」では、1つの環境の悪化が、更なる環境の悪化を招くと言われます。ゴミのポイ捨てや落書きの問題は、こうした環境の更なる悪化に結びついていくのではないかと考えています。それを防ぐために、ゴミ拾いをパトロールの最中に行っていく、花を花壇に植えていく、緑を増やすなどの活動が必要なのではないかと思えます。また、駐輪場の整備も自転車盗の防止につながっていく有効な活動ではないかと思えます。

○ 質問 「割れ窓理論」については、広島県においても、地域安全マップづくり等でも活用させていただいております。犯罪を防止するためには、犯罪を犯そうとしている人の規範意識に訴えかける必要があると思うのですが、例えば、自転車盗を防止するためには、どのような方法がありますか？

○ 回答 チラシを配っていくといった活動から、自転車の施錠のチェック、被害防止の呼びかけなどの活動まで、地道な活動が重要だと思います。特に自転車については、「盗んでもいい。」といった気持ちをなくすために、自転車盗も重大な犯罪であるということをきちんと認識させることが必要だと思います。そのためには、従来の広報啓発活動だけでなく、若者の関心の高い漫画やQRコード等を利用して、呼びかけていくといった方法も検討していく必要があると考えています。

子どもへのアプローチについては、自分たちが子どものころ、市役所の方や警察署の方が小学校に来校し、自転車の乗り方や交通ルールを教えてくれたと思いますが、私たち若者が、小学校や幼稚園に出向き、同じように信号無視等の違反を教え、規範意識を高めていくのも1つの方法だと思います。また、あいさつは、犯罪の発生件数の減少につながる最も簡単な方法だと思いますので、子どもにあいさつの重要性を伝えていくこ

とも必要だと考えております。

- 質問 チラシを配る、声かけを行うなどの活動ですが、2班の団体では、どのように実践しているのでしょうか？
- 回答 ロックモンキーズの事例ですが、私どもの団体は活発に啓発活動を行っています。子どもの安全確保、自転車盗難防止の呼びかけなどやっておりますが、その際、チラシ等のデザインについては、大学で企業デザイン等の広告を学んでいる学生に作っていただいています。デザインを学んでいる学生は、どのようにすれば見てもらえるかをよく知っておりますので、依頼しております。また、学生の規範意識を高めるために、シールを作成しています。シールを貼っていただくことで、興味を持ってもらうことを目的としています。他の都道府県でもチラシを配って啓発活動を行っています。例えば、徳島県では、自転車盗難防止のワイヤーロックを配布したり、高齢者の振り込め詐欺被害防止の啓発のチラシを作成して、配布するなどの啓発活動に取り組んでいます。全国でもチラシを利用した啓発活動の事例は多くあります。



テーマ③「自主防犯活動への若者の参加促進を図るための効果的な活動方策」

検討団体(16 団体)

- みやぎマモルンジャー 【宮 城 県】
- 山形SICT(山形庄内育成チャレンジチーム) 【山 形 県】
- 群馬県YOUNG防犯ボランティア協議会 【群 馬 県】
- Crippa-s(クリッパーズ) 【埼 玉 県】
- APP(あいちパトロールピーポー) 【愛 知 県】
- ヤングリレーション滋賀 【滋 賀 県】
- 大阪学生ボランティアネットワーク「みつくす」 【大 阪 府】
- 鳥取県防犯パトロール隊「チャンス」(Chance) 【鳥 取 県】
- ももパト隊 【岡 山 県】
- スリーアローズ 【広 島 県】
- 大学生ボランティアネットワーク 4-Rings 【愛 媛 県】
- YCPK(若者の防犯ボランティア in 高知) 【高 知 県】
- ななくま元気にするっ隊 【福 岡 県】
- さがんせん隊 守るんじゃー 【佐 賀 県】
- ヤングチェスト隊 【鹿 児 島 県】
- 鼓舞楽団浦風パトロール隊 【沖 縄 県】

検討結果発表

[発表者]

- | | |
|---------------------------|-------------|
| ◇ Cr i p p a — s (クリップーズ) | 【埼玉県】 榎本 亮太 |
| ◇ 大阪学生ボランティアネットワーク「みっくす」 | 【大阪府】 川名 早貴 |
| ◇ 鼓舞楽団浦風パトロール隊 | 【沖縄県】 加藤 伸佳 |



私たちは、自主防犯活動への若者の参加促進を図るための効果的な活動方策について検討をいたしました。

発表は、3つに分けて行わせていただきます。1つ目は方法、2つ目は広報の内容、3つ目は広報の対象です。

若者の参加促進を図るための方法

初めに方法についてですが、私たちは原点に戻って考えてみようということで、防犯ボランティア活動を始めた動機について検討しました。

その結果、「警察に興味がある」、「友だちの被害を見て応募した」、「もともと活動をしていた」、「自治活動の一環として始めた」、「県を活気づけたかった」などの動機があげられました。一番多かった動機は、警察、大学職員からの誘いで防犯ボランティア活動を始めたというものでした。つまり、多くの方が防犯ボランティアという活動自体をあまり知らなかったということになります。

そこで、私たちは多くの若者に防犯ボランティア活動に参加してもらうために、防犯ボランティア活動を積極的に広報していく必要があるのではないかと考えました。

広報の方法としては、「寸劇を学生で行って地域の方々に周知してもらう」、「ポスター、チラシを自分たちで作成して、駅や他大学に配布する」、「大学と連携し、教授の方々と協力して防犯に関する講義を開いてもらう」、「自治体等に協力してもらいイベント等を開催する」、

「県の伝統行事等と関連付けた防犯活動を行う」、「全国で一斉に防犯活動を行い、メディアに取り上げてもらう」、「大学周辺で目立つ服装をして活動を行い、認知度を高める」等です。

広報の内容

それでは、広報の内容について発表します。

1点目は、「防犯ボランティア活動とはどのようなものか」、「どのような活動をしているのか」ということを明らかにして広報することです。

活動に参加したほとんどの方は、警察等のチラシやポスターを見て活動に参加しているようです。しかし、チラシ等には、「防犯ボランティア活動に参加しませんか?」とは書かれているものの、「防犯ボランティア活動とはどのような活動をするのか」ということが具体的に書かれておらず、活動内容が分からないため、若者は不安で参加できないのではないかとという意見がでました。

そこで、活動の内容を明白に分かりやすくチラシ等に記載し、広報していけば不安を取り除けるのではないかと考えました。

広報する活動内容について例をあげますと、沖縄県では「エイサー」という伝統文化を活用しながら防犯活動に取り組んでいるのですが、「防犯活動を行いながら、伝統と文化を守るための活動も行っている」というように団体の活動内容を具体的に広報することで、団体の魅力を分かりやすく伝えていけるのではないかと考えています。

2点目は、「活動に参加することのメリット」を広報することです。

私たちは警察の方と協力して活動しておりますが、普通の大学生は、警察の方と知り合いになる機会はまずありませんので、警察の方と知り合えることもメリットの1つではないかという意見が出ました。中には、警察の方と一緒に活動することを怖がる人もいますが、普段知り合えない方と一緒に活動できることはメリットでありますし、警察の方以外にも他の大学の方や大学職員の方、普段防犯とは結びつきにくい音楽サークルなどの他団体の方と一



緒に活動できる機会を得ることは貴重だと思います。

また、活動を通じて、地域の高齢者の方や様々な職業の方と知り合いになり、色々な話や情報交換ができることも魅力の1つではないかと思えますし、色々な方と知り合いになることで、大学生自身のネットワーク

も広がっていくのではないかと思えます。こうしたメリットをもっと前面に打ち出すことが、広報活動に役立つのではないかと考えております。

また、防犯ボランティア活動を継続的に行っている大学生に特典を設けてはという意見も出ました。例えば、岡山県の大学では、大学の単位として、防犯ボランティア活動を認定する予定だと聞いておりますが、特典を与えることが、活動に参加するきっかけづくりになるのではないかと考えています。また、継続的に活動に参加することで、表彰を受けたり、グッズをもらえたりするといった特典を設けることも、活動に参加する動機付けになり、参加者が増えるのではないかと考えました。

こうした考えに対して、「ボランティアというのは本来、無償の活動ではないか」という批判的な意見もあるとは思いますが、防犯に関心のない若者が活動を始めるきっかけや、参加者のモチベーションの向上にもつながりますので、特典というメリットを設け、広報していくことも効果的ではないかと考えました。

広報の対象

次に、広報対象についてお話しします。

その前に余談としてお話をさせていただきますと、先ほど紹介があったように、私は沖縄県でエイサーをやっております。これがボランティア活動の一環になるのかどうかは分かりませんが、私たちは「笑顔」をモチーフに創作エイサーを行っており、その笑顔によって人が沢山集まってきます。私は埼玉県出身でして、沖縄県に来て、エイサーを初めて知りました。私は、エイサーを通じて、笑顔で人と人とのつながりは深くなるということを心から強く感じました。

さて、広報対象としては、個人個人を募集していくことももちろん必要なことですが、それでは効率的な広報活動はできません。そこで、団体、大学で言えばサークル等へ直接お願いに出向き、より多くの人数を対象として参加者を募っていったほうが効率的だと考えました。

ただし、登録しているだけで、実際は参加してくれない人、いわゆる幽霊部員のような人が出てくることもありますので、注意しなければなりません。

次に、将来、警察官を志望している人を誘うことです。自分たちのグループの中にも警察官を志望している人が多数いました。警察官を志望している人にとって、防犯ボランティア活動に参加することは、将来役に立つことだと思いますし、率先的に活動に参加してくれるのではないかと思います。

最後に、これは2班の発表でもあったかと思いますが、自分たちより若い世代の人たちを募集することです。私たちは、大学生になってから防犯ボランティア活動に参加しましたが、より若い時期から防犯ボランティア活動に参加してもらうことで、長いスパンで防犯の意識を身に付けることができ、レベルの高い活動を行ったり、高い規範意識を持つことができるのではないかと考えました。

若者の参加促進を図るための方法や広報の内容、広報対象について議論しましたが、大切

なことは、全国で活動を行っている学生防犯ボランティアが、効果的な方法について意見交換や情報交換を行い、情報の共有化を図ることではないかと思います。また、全国学生防犯ボランティアデー等を設け、全国一斉に活動を行うことで、メディア等に取り上げてもらい、活動を周知してもらうことも効果的な方法ではないかと思います。

最後に、私たちを始め、ここに集まった一人一人の方には、引き続き高い防犯意識を持って、防犯ボランティア活動に取り組んでいただきたいと思います。私たちが動かなければ、他の若い世代の方たちも、動いてはくれません。私たちが動くことが、友だちや同級生等に影響を与え、防犯ボランティア活動への参加が促進されると考えております。

また、今回、学生防犯ボランティアが情報交換を行う場として、ヤングボランティアサミットを開催していただいたことに大変感謝しております。



私たちは、ここで検討した内容を持ち帰って、これからの防犯活動に活かしていきたいと思えます。

ありがとうございました。

- 司会 ありがとうございました。何か質問はございますか。
- 質問 効果的な活動方策といっても難しいと思いますが、自分たちの活動の中でこれは効果があったと実感した活動方策を教えてください
- 回答 私たちは、自転車用のひったくり防止ネットを配布するという活動を行いました。私たちのメンバーの中には、実際に被害にあった者もおります。ひったくり防止ネットの配布は、防犯意識を高める点でも、被害を防止する点でも、とても効果があったと思えます。参加者の募集については、大学生の特性を活かし、メンバーが友だちを誘っていますが、「活動は固いものでなく、楽しい活動」ということを前面に打ち出し、単純に防犯の活動をするだけでなく、みんなで仲良く活動していることを周知していくことが大切だと実感しました。
- 司会 いま日本で一番有名な大学生が一番大切なものは「仲間」だと言っていました。本日参加された方も、この機会に多くの仲間を手に入れることができたと思えます。

是非防犯ボランティア活動をしている仲間の輪をさらに広げていただいて、本日参加されている方だけでなく、同じような志を持つ皆様とも仲間になっていただいて、防犯ボランティア活動を進めていただければと考えております。

犯罪の起きにくい社会を実現するためには、若い方々の力が必要でございます。本日検討していただいた内容は、大変すばらしく若い世代の活動を活性化させていく上で極めて有意義であったと考えております。皆様におかれましては、本日検討していただいた内容を各団体に持ち帰り、他の構成員の方とも話し合っただいただければと思います。

最後に、警察庁生活安全局生活安全企画課都市防犯対策官の赤松から、本日の発表について講評させていただきます。

講 評（警察庁生活安全企画課 赤松都市防犯対策官）



本日は、熱心なご討議ありがとうございました。

ただ今ご紹介いただきました、警察庁生活安全局生活安全企画課で都市防犯対策官をしております赤松と申します。よろしくお願ひ申し上げます。

まず、本日ご発表いただきました皆様、熱のこもった意見交換お疲れ様でした。

特に各分科会で司会と司会補助をされた皆様、テーマごとに立派なとりまとめをいただき、どうもありがとうございました。

私も各分科会での様子を拝見させていただきましたが、いずれの分科会におきましても、それぞれの方が様々な質問をし、色々なことを考えながら積極的に意見交換をされておられる姿を見てまいりました。もちろん各分科会で得た結論というのも大事ですが、一緒に考えて意見交換をして検討し合うというプロセス自体も貴重なものだと考えております。本日ご参加いただいた皆様は、分科会に参加し、検討されたことの意味を認識していただき、本日参加できなかった仲間の方々にも伝えていただき、今回の会合をより深いものにしていただければと、この場をお借りしてお願い申し上げます。

それでは、講評のお時間をいただきましたので、私なりにコメントさせていただければと思います。

1班の「大学生等が行なうべき自主防犯活動」についてですが、このテーマは皆さんがボランティア活動をより活発で、質の高いものにしていくための方策として設けました。大学生しかできないこと、あるいは大学生だから優位なことというものを最大限に活かす。一方で、大学生ではやりにくいこと、あるいは大学生ではできにくいことというものを念頭において、そのメリットとデメリットを最大限に考えながら、良い方策を考えていただきたいというものでした。皆さんの発表を聞いておりますと、いわゆるSWOT分析（ソート分析）、強み、弱み、脅威、機会というものを考えながら、自分たちの強みを活かし、機会を活かし、脅威を取り除き、弱いところをなくすといった課題を考えながら検討していただいているようで、有意義なことだったと思います。特に、「五箇条の御誓文」とあえて言わせて頂きますが、「楽しく」「愛らしく」「見やすく」「つけやすく」「学びやすく」。非常によいスローガンだと思います。皆さんの活動の中で、日々活かしていただければと思います。また1班の発表にありましたように、女子大学生の発想を多く盛り込み、可愛らしいマークなども踏まえ、楽しさをアピールするようなことを考えられるのも、大学生の特権だと思いますので、今後とも是非活動に活かしていただければと思います。

内容面では、自転車やバイクの盗難についての考え方や、加害者の視点をよく意識するなど、考えておられるのがよく分かりました。また、デザインを工夫し柔軟なアイデアも非常にたくさん含まれていたと思います。

続いて、2班の「若者の規範意識を高めるための効果的な活動方策」についてです。このテーマは、以前は社会に根付いていた個人の規範意識、あるいは地域の絆といったものが、今や崩壊の危機に瀕しつつある。そして、それが犯罪につながっていると考えられることから、皆さんと同世代の若者の規範意識を高めるためには、どうしたらいいか考えていただくということを、狙いとしておりました。

非常に難しいテーマだったと思います。我々のなかでも抽象的すぎて、難しいのではないかと心配しておりましたが、具体的なマナー違反の行動にむすびつけて検討していただいたことが、非常によかったと思います。とくに私どもでは手に取らないフリーペーパーですとか、QRコード、ながら運動、同世代だからわかるアピールポイントというものを盛り込んでいただいて、大学生らしいご提案をいただいたのかなと思っております。発表者の方から話がありましたが、「規範意識とは何か？」というところが重要になってくるところで、そこにつきましては各自ご意見が違うので、この場では、時間の制限もありますのでまとめるというのは難しいですが、それは今日の発表いただいた内容を各人皆さんがお持ち帰りいただいて、さらに「なぜ、規範意識が低いのか?」「では、どのような訴えかけをしていけばいいのか?」。そういったことを踏み込んで検討していただき、活動に反映させていただければ、より一層質の高い規範意識の向上につながるのかなと感じました。そこは答えのない世界ですので、皆さんが各自考えていただければと思います。

最後に、3班の「自主防犯活動への若者の参加促進を図るための効果的な活動方策」についてです。大学生が防犯ボランティア活動に参加される場合、通常は在学中の間だけです。毎年構成員が替わっていく。これが地域のボランティアとの大きな違いでございます。このテーマは、ボランティア活動に参加してくれる若者を増やすということで、団体としての継続性を確保していただく効果的な方法はないかと考えていただくことを、狙いとしておりました。

ご発表の皆様は、我々が期待していた「まずは初心に帰って自分が参加するときのどういった気持ちであったか」、「どのようにプロデュースすれば参加しやすかったか」を検討していただいたようで、内容のある発表であったと思います。特に、「話を聞くまでは防犯ボランティアを知らなかった」などは、私たちにとっても反省点ではありますが、そのことをひとつの売りにして、参加していただくきっかけとしていこうということはいいいアイデアで、我々も同じようなことを考えなくてはいけないなと思いました。さらに、最終的には、特典の話も出ましたが、ターゲットをどこに絞るかまで検討していただきましたので、その検討も参考になったかと思えます。

最後に、討論の中に出てきませんでした、「大学生の活動」だから与えられるメリットというものを、若者の方に訴えていくような内容を取りこんでいって、方策に活かしていただければ、なおよかったかなと思いました。質疑応答の中で話があがりましたので話としてはあったのですが、発表のなかにはとりこめなかったのが惜しかったと思います。

全般として非常に意義のある発表であったと思います。

大学生中心の防犯ボランティアの継続性につきましては、私どもの非常に関心をもって注視していきたいと考えておりますので、どうか皆さんには私どもの心配が杞憂に終わるよう、今回の発表を是非参考にさせていただいて、今後も活動していただければと思います。

以上、発表いただいた内容につきまして感想を述べさせていただきましたが、本日の発表内容は、今後の皆さんの活動を活発で継続的なものに定着させていく上で、すばらしい意味深い内容であったと思っております。

ご参加いただいた皆さんには、本日得られた成果を糧に、さらに活動の質を高めつつ継続して活動に取り組んでいただき、引き続き地域の規範意識、連帯感の強化の重要な起爆剤となっていいただければと考えます。

警察といたしましても、成果を全国的に広げていきたいと考えておりますし、都道府県警察あるいは、地元の警察署や交番などにおきましても、より密接な連携が図られるよう皆さんの活動を支援していきたいと考えております。

大学生中心のボランティアは、まだ緒に着いたばかりです。前例もあまり無いなかで、手探りで活動しておられる部分も多々あるかと思いますが、そうしたなかで、不安や迷い悩みがあったとき、横の仲間を見ることができるのも非常に重要だと思っております。

皆さんには、全国同じ志で安心・安全なまちづくりに、取り組んでいる同世代の仲間がいることを、今後とも心のよりどころにして、活動していただければと考えております。また、本日こちらにお集まりになったのも何かの縁でしょうから、司会からもご案内があったとおり、これからの横のつながりというものも築いていただければ、大学生中心のボランティア活動を将来につなげていく上で、この会合の意味はより深まるものと期待しております。

本日は熱心なご発表、どうもありがとうございました。

検討団体プロフィール

【北海道】北海道大学生等ボランティアネットワーク

平成22年11月末現在



構成員 (625人)
 札幌大学(149人)、北海道大学(83人)、東海大学(77人)
 札幌国際大学(75人)、苫小牧駒澤大学(70人)、北海道武蔵短期大学(48人)
 北海道教育大学(48人)、北翔大学(45人)、小樽商科大学(30人)

主な活動地域
 札幌市、江別市、苫小牧市、小樽市

活動内容
 ・徒歩による防犯パトロール(月4回)
 ・広報啓発活動(2ヶ月に1回)
 ・環境美化活動(年1回)
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加
 ・防犯教室の開催

【青森県】Aomori Public Peace Maker



構成員 (27人)
 青森公立大学(7人)、八戸工業大学(5人)、青森中央学院大学(4人)
 東北女子大学(4人)、県立保健大学(3人)、青森大学(2人)
 弘前大学(2人)

主な活動地域
 青森市

活動内容
 ・小学生の登下校時間帯における子どもの見守り活動(月1回)
 ・毎月15日のATM集中警戒日における振り込め詐欺被害防止広報活動(月1回)
 ・徒歩・自動車による防犯パトロール(月2回)
 ・大学内での自転車盗・万引き防止広報啓発活動
 ・防犯キャンペーン(秋の安全・安心まちづくり県民大会、年末特別警戒パトロール等)への参加

【岩手県】花巻ハンズtoハンズ



構成員 (33人)
 富士大学(23人)、会社員(10人)

主な活動地域
 花巻市

活動内容
 ・ランニングによる防犯パトロール(月15回)
 ・子どもの見守り活動(月15回・登下校時)
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加

【宮城県】みやぎマモルンジャー



構成員 (70人)
 東北福祉大学(41人)、聖和学園短期大学(12人)、仙台大学(8人)、
 石巻専修大学(3人)、東北工業大学(2人)、東北文化学園大学(2人)、
 東北学院大学(1人)、尚絅学院大学(1人)

主な活動地域
 宮城県内

活動内容
 ・徒歩による防犯パトロール(月1回)
 ・子どもの見守り活動(月1回・下校時)
 ・防犯広報キャンペーン(月1回)
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加
 ・防犯教室・寸劇の開催
 ・チラシ・ポスターの作成
 ・地域安全マップの作成

【秋 田 県】AVA(秋田ボランティア活動)



構成員 (26人)
ノースアジア大学(26人)

主な活動地域
秋田市

活動内容
 ・通学路の子ども見守り・保護活動(月4回)
 ・徒歩による防犯パトロール活動(月4回)
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒活動等)への参加
 ・自転車盗難防止活動

【山 形 県】山形SICT (山形庄内育成チャレンジチーム)



構成員 (50人)
東北公益文科大学(27人)、山形大学農学部(14人)、私立酒田南高校(9人)

主な活動地域
酒田市、遊佐町、鶴岡市、三川町

活動内容
 ・徒歩・自転車による防犯パトロール(月1回)
 ・子どもの見守り活動(月2回・下校時)
 ・他のボランティア団体、警察との夜間合同パトロールへの参加
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加
 ・警察、学校等と連携した不審者対応教室、薬物乱用防止教室の開催

【福 島 県】昌平パトロール隊

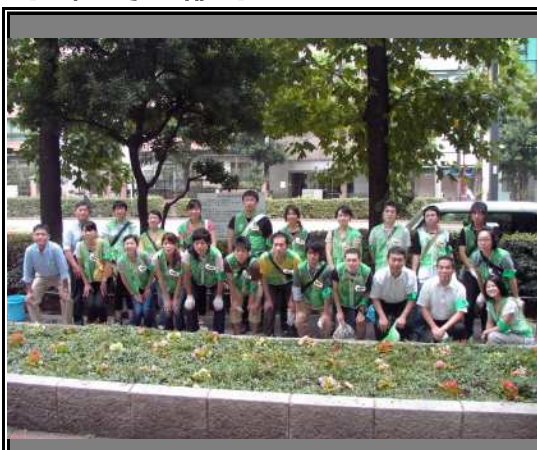


構成員 (66人)
東日本国際大学(55人)、いわき短期大学(11人)

主な活動地域
いわき市

活動内容
 ・徒歩による防犯パトロール(年数回)
 ・自転車の防犯診断(毎月26日)
 ・子どもの見守り活動(年数回)
 ・広報啓発活動(毎月15日)
 ・環境美化活動(半年1回)
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加

【東 京 都】ピーポーズ



構成員 (90人)
 明星大学(27人)、帝京平成大学(9人)、日本文化大学(7人)
 明治学院大学(6人)、帝京大学(6人)、目白大学(5人)、杏林大学(3人)
 法政大学(3人)、青山学院大学(2人)、東洋大学(2人)、日本大学(2人)
 早稲田大学(1人)、日本女子体育大学(1人)、東京大学(1人)
 東京農業大学(1人)、上智大学(1人)、駒澤大学(1人)、東京家政大学(1人)
 東海大学(1人)、専修大学(1人)、専門学校(3人)、会社員等(6人)

主な活動地域
都内全域

活動内容
 ・地域毎の防犯パトロール(月2～3回)
 ・子どもの見守り活動(月2～3回)
 ・全エリアにおける防犯パトロール(年2回)
 ・景観対策
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・全国地域安全運動における各種実施の大会、つどいへの参加

【茨城県】V.P.I(ボランティア パトロール イバラキ)



構成員 (35人)
茨城大学(20人)、筑波大学(15人)

主な活動地域
水戸市、つくば市

活動内容
・徒歩による防犯パトロール(月8回)
・子どもの見守り活動(月2回)
・他のボランティア団体との合同活動への参加
・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加
・広報啓発活動
・環境美化活動

【栃木県】栃木まもろーが



構成員 (53人)
宇都宮大学(44人)、宇都宮共和大学(9人)

主な活動地域
宇都宮市

活動内容
・防犯パトロール(月2回)
・広報啓発活動(パトロールと併せ月2回)
・警察と連携した学生を対象とした護身術指導。

【群馬県】群馬県YOUNG防犯ボランティア協議会



構成員 (577人)
高崎経済大学(36人)、関東学園大学(22人)、群馬県立女子大学(19人)
新島学園短期大学(17人)、群馬大学(13人)、共愛学園前橋国際大学(8人)
高崎健康福祉大学(7人)、上武大学(4人)、高崎商科大学(3人)
東京福祉大学(3人)、群馬法科ビジネス専門学校(2人)、創造学園大学(2人)
群馬医療福祉大学(2人)、法政大学(1人)、立正大学(1人)、駿河台大学(1人)
大泉保育福祉専門学校(1人)、関東短期医大学(1人)
埼玉純真短期大学(1人)、その他(会社員、高校生等)(433人)

主な活動地域
群馬県全域

活動内容
・地域部会毎の防犯パトロール、自動車による防犯パトロール(月5回)
・地域部会毎の子どもの見守り活動(月3回)
・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加
・子ども向け防犯出前講座の実施
・地域安全マップづくり活動
・合同パトロール活動への参加

【埼玉県】Crippa - s(クリッパーズ)




構成員 (63人)
聖学院大学(32人)、東京理科大学(16人)、武蔵野学院大学(3人)
駒澤大学(2人)、獨協大学(1人)、大正大学(1人)、中央学院大学(1人)
中央大学(1人)、日本女子大学(1人)、会社員(5人)


主な活動地域
上尾市、さいたま市、久喜市、越谷市、狭山市、熊谷市

活動内容
・徒歩による防犯パトロール(月1回)
・子どもの見守り活動(月1回・下校時)
・広報啓発活動(月1回)
・環境美化活動(概ね2ヶ月に1回)
・他のボランティア団体との合同活動への参加
・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加


【千葉県】ブルー・スターズ

	<p>構成員 (45人) 千葉科学大学(27人)、淑徳大学(11人)、千葉大学(4人) 都内私立大学(1人)、専門学校生(1人)、会社員等(1人)</p>
<p>主な活動地域 千葉市、松戸市、銚子市</p>	<p>活動内容 ・徒歩、自動車による防犯パトロール(月2回) ・子どもの見守り活動(月2回・下校時) ・広報啓発活動(2ヶ月に1回) ・他のボランティア団体との合同活動(キャンペーン・パトロール等) ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加 ・防犯教室の開催</p>


【神奈川県】神奈川防犯シーガル隊

	<p>構成員 (32人) 慶応義塾大学(27人)、明治大学(2人)、神奈川大学(1人) 明治学院大学(1人)、会社員(1人)</p>
<p>主な活動地域 横浜市、川崎市、鎌倉市、伊勢原市、厚木市、大和市</p>	<p>活動内容 ・徒歩による防犯パトロール(月2回) ・広報啓発活動(月1回) ・防犯キャンペーン(防犯の日、交番の日)への参加 ・他のボランティア団体との合同活動への参加</p>

【新潟県】新潟地域防犯ボランティア

	<p>構成員 (30人) 新潟大学(29人)、会社員(1人)</p>
<p>主な活動地域 新潟市西区</p>	<p>活動内容 ・見守り・防犯パトロール(月2回) ・広報啓発活動(3ヶ月に1回) ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加 ・放置自転車整理等環境美化活動</p>

【山梨県】やまなし守り隊

	<p>構成員 (59人) 山梨県立大学(31人)、山梨学院大学(27人)、甲府商業高校(1人)</p>
<p>主な活動地域 甲府市</p>	<p>活動内容 ・徒歩による防犯パトロール(月1回) ・子どもの見守り活動(週2回・下校時) ・広報啓発活動(月1回) ・自主防犯ボランティア協議会連合会研修会への参加 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加</p>

【長野県】信濃地域安全学生見守り隊(通称:信濃ホワイトレンジャー)



構成員 (22人)
 松商短期大学(6人)、長野大学(6人)、松本大学(3人)
 諏訪東京理科大学(2人)、信州大学(1人)、関西外国語大学(1人)
 清泉女子学院高校(3人)

主な活動地域
 松本市、安曇野市、茅野市、長野市、小諸市

活動内容
 ・子どもの見守り活動(週2回・下校時)
 ・広報啓発活動
 ・環境美化活動・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(街頭犯罪等抑止総合対策強化月間、地域安全運動、年末特別警戒等)への参加
 ・防犯教室の開催

【静岡県】しずおか・ピース



構成員 (80人)
 静岡英和学院大学(26人)、東海大学短期大学部(19人)
 静岡産業大学(13人)、静岡文化芸術大学(6人)、日本大学(3人)
 静岡大学(2人)、常葉学園大学(2人)、浜松大学(1人)、神奈川大学(1人)
 専門学校(3人)、会社員等(4人)

主な活動地域
 静岡県全域

活動内容
 ・徒歩等による防犯パトロール(月1回)
 ・子どもの見守り活動(月2~3回)
 ・広報啓発活動(月1回程度)
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加
 ・防犯教室の開催

【富山県】とやま・シーブス(CPS)



構成員 (38人)
 富山大学(34人)、富山国際大学(2人)、富山福祉短期大学(1人)
 高岡法科大学(1人)

主な活動地域
 富山市、高岡市

活動内容
 ・徒歩による防犯パトロール(月2回)
 ・広報啓発活動(月1回)
 ・防犯イベント(安全なまちづくりフェスティバル、年末特別警戒等)への参加
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯講習の開催

【石川県】石川ユニバーシティーズ防犯プロジェクト



構成員 (79人)
 金沢工業大学(71人)、金城大学(4人)、石川県立大学(4人)

主な活動地域
 白山市、野々市町

活動内容
 ・防犯パトロール(月1回) ・広報啓発活動(月1回)
 ・研修会(年2回)
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加
 ・防犯教室の開催
 ・防犯チラシ、防犯グッズの考案
 ・各種防犯イベントへの参加

【 福 井 県 】 福井県防犯ボランティアパトロール隊



構成員 (28人)
 福井県立大学(9人)
 福井大学(7人)
 福井工業大学附属福井高等学校(12人)

主な活動地域
 福井県内全域

活動内容
 ・徒歩による防犯パトロール(月1回)
 ・防犯講習会への参加
 ・街頭広報活動の実施
 ・自転車防犯診断の実施

【 岐 阜 県 】 めぐる



構成員 (27人)
 朝日大学(26人)、岐阜経済大学(1人)

主な活動地域
 瑞穂市

活動内容
 ・徒歩による防犯パトロール(週6回)
 ・環境美化活動(上記パトロールを通じて実施)
 ・青色回転灯装備車による防犯パトロール(週2回)
 ・子どもの見守り活動(上記青色防犯パトロール活動を通じて実施)
 ・広報啓発活動(月1回)
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(全国地域安全運動、年末年始地域安全運動等)への参加
 ・防犯教室の開催

【 愛 知 県 】 APP(あいちパトロールビーバー)



構成員 (36人)
 名城大学(23人)、中京大学(7人)、名古屋女子大学(6人)、

主な活動地域
 名古屋市天白区・昭和区周辺

活動内容
 ・自転車防犯診断(月1回)
 ・徒歩による防犯パトロール(月1回)
 ・検討会・防犯研修会(月2回)
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加
 ・防犯教室の開催

【 三 重 県 】 三重中勢ブロックヤングボランティアチーム



構成員 (50人)
 三重大学(35人)、皇學館大学(10人)、伊賀青年会議所(5人)

主な活動地域
 津市、伊賀市、名張市

活動内容
 ・徒歩による防犯パトロール(月1回) ・自動車による防犯パトロール(月1回)
 ・子どもの見守り活動(週1回・下校時) ・広報啓発活動(2か月に1回)
 ・環境美化活動(半年に1回)
 ・自転車の防犯診断活動(年2回)
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加
 ・防犯教室の開催

【滋賀県】ヤングリレーション滋賀



構成員 (26人)
 龍谷大学(17人)、びわこ成蹊スポーツ大学(5人)
 成安造形大学(2人)、会社員(2人)

主な活動地域
 大津市

活動内容
 ・自主防犯団体活動(防犯パトロール、子ども見守り活動)への参加
 ・防犯教室への参加
 ・広報啓発物の作成
 ・各種イベント等での啓発活動の実施
 ・環境美化活動
 ・各防犯活動団体との交流会の開催
 ・防犯研修会等への参加
 等の活動を月1~2回予定

【京都府】学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」



構成員 (129人)
 立命館大学(20人)、京都ノートルダム女子大学(20人)、京都女子大学(13人)
 同志社大学(10人)、京都産業大学(7人)、龍谷大学(6人)
 同志社女子大学(6人)、佛教大学(6人)、京都橘大学(4人)
 平安女学院大学(4人)、京都大学(3人)、京都文教大学(3人)、花園大学(3人)
 帝塚山大学(3人)、大谷大学(2人)、京都精華大学(2人)
 京都工芸繊維大学(2人)、池坊短期大学(1人)、種智院大学(1人)
 京都教育大学(1人)、大阪工業大学(1人)、京都府立大学(1人)
 近畿大学(1人)、京都学園大学(1人)、日本大学(1人)、摂南大学(1人)
 関西外国語大学(1人)、京都外国語大学(1人)、京都医療科学大学(1人)
 大阪経済法科大学(1人)、京都嵯峨芸術大学(1人)、大阪音楽大学(1人)

主な活動地域
 京都市

活動内容
 ・防犯パトロール(月2回)
 ・広報啓発活動(月4回)
 ・危険箇所の点検(月1回)
 ・「安全安心まちづくり京都大会」への参画
 ・他の防犯ボランティア団体との合同活動への参加

【大阪府】大阪学生ボランティアネットワーク「みっくす」



構成員 (27人)
 関西大学(8人)、大阪国際大学(6人)、関西学院大学(2人)、同志社大学(2人)
 千里金蘭大学(2人)、梅花女子大学(2人)、大阪大学(1人)、龍谷大学(1人)
 大阪市立大学(1人)、大阪経済大学(1人)、神戸松蔭女子学院大学(1人)

主な活動地域
 吹田市

活動内容
 ・広報啓発活動(月2回)
 ・警察、自治体等と合同の防犯キャンペーン
 ・各構成員の居住地における既存のボランティア団体への活動への参加
 ・団体独自の防犯パトロール、広報啓発活動の実施。

【兵庫県】ひごの守



構成員 (51人)
 関西国際大学(50人)、武庫川女子大学(1人)

主な活動地域
 三木市、西宮市

活動内容
 ・徒歩による防犯パトロール(月4回)
 ・子どもの見守り活動(週3回・下校時)
 ・広報啓発活動(2ヶ月に1回)
 ・老人会等に対する振り込め詐欺防止寸劇による被害防止活動
 ・中学校を訪問しての万引き、自転車盗等の防止を目的とした非行防止活動
 ・防犯キャンペーン(防犯ネット加入促進、地域安全運動等)への参加
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加

【奈良県】あっぷりけ戦隊！奈良まもりたい



構成員 (71人)
 天理大学(51人)、奈良産業大学(10人)、畿央大学(3人)
 帝塚山大学(2人)、梅花女子大学(2人)、奈良女子大学(1人)
 武庫川女子短期大学(1人)、四天王寺大学(1人)

主な活動地域
 奈良市、天理市、王寺町、三郷町、香芝市

活動内容
 ・防犯パトロール(月4回) ・子どもの見守り活動(月2～4回)
 ・広報啓発活動(月1～3回) ・危険箇所の点検(月1～3回)
 ・他のボランティア団体との子ども見守り活動等、合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加
 ・各警察署が計画するイベントや駅頭などにおける啓発活動の実施
 ・戸別訪問の実施など、高齢者等に対する犯罪被害防止活動の実施
 ・警察と協同した非行・被害防止教室への参加

【和歌山県】きのくにまもり隊



構成員 (28人)
 和歌山大学(24人)、関西福祉科学大学(1人)、会社員等(3人)

主な活動地域
 和歌山市

活動内容
 ・徒歩による防犯パトロール(月2回)
 ・広報啓発活動(2ヶ月に1回)
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加

【鳥取県】鳥取県防犯パトロール隊「チャンス」(Chance)




構成員 (28人)
 鳥取大学(15人)、鳥取環境大学(13人)


主な活動地域
 鳥取市

活動内容
 ・徒歩による防犯パトロール(月4回)
 ・自転車による防犯パトロール(月2回・下校時)
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加
 ・広報啓発活動
 ・海水浴場での水難防止活動


【 島 根 県 】 松江地区学生防犯ボランティアネットワーク

	<p>構成員 (70人) 島根大学(70人)</p>
<p>主な活動地域 松江市</p>	
<p>活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・徒歩による防犯パトロール(月1回) ・子どもの見守り活動(月1回) ・広報啓発活動(随時) ・危険箇所点検(随時) ・他のボランティア団体との夜間合同パトロール ・まちづくり旬間(10/11～10/20)におけるイベントへの参加 </p>	


【 岡 山 県 】 ももパト隊

	<p>構成員 (80人) 就実大学(30人)、就実短期大学(12人)、岡山商科大学(14人) IPU環太平洋大学(11人)、新見公立大学(5人)、吉備国際大学(3人) ノートルダム清心女子大学(3人)、新見公立短期大学(2人)</p>
<p>主な活動地域 岡山市、新見市、高梁市</p>	
<p>活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・徒歩による防犯パトロール(月2回) ・子どもの見守り活動(月2回・下校時) ・危険箇所の点検(月1回) ・広報啓発活動(防犯マップづくり) ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加 ・地元の既存の防犯ボランティアとの合同パトロール ・リーダー養成講座の受講 </p>	


【 広 島 県 】 スリーアローズ

	<p>構成員 (49人) 広島国際大学(19人)、広島大学(6人)、近畿大学(5人) 広島経済大学(4人)、広島県立大学(4人)、広島国際学院大学(3人) 比治山大学(2人)、広島工業大学(2人)、広島修道大学(2人) 広島情報専門学校(1人)、アルバイト(1人)</p>
<p>主な活動地域 広島市、東広島市、三原市</p>	
<p>活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・広報啓発活動 ・防犯イベントへの参加 ・防犯キャンペーン(全国地域安全運動、年末警戒等)への参加 ・防犯パトロール等検討中 </p>	


【 山 口 県 】 V.O.Y.S (ボランティア オフ ヤマグチ セーフティ)

	<p>構成員 (36人) 徳山大学(22人)、山口大学(14人)</p>
<p>主な活動地域 山口市、周南市</p>	
<p>活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・広報啓発活動(月1回～自転車盗被害防止、性犯罪被害防止、振り込め詐欺被害防止等広報キャンペーン) ・環境美化活動(2ヶ月に1回) ・放置自転車撤去活動(概ね3ヶ月に1回) ・他団体との合同防犯パトロール ・被害者支援広報 ・防犯イベント(全国地域安全運動、年末特別警戒等)や防犯研修会等への参加 </p>	


【徳島県】Peace Of Tokushima

	構成員 (66人) 四国大学(28人)、徳島文理大学(20人)、徳島大学(18人)
	主な活動地域 徳島市、鳴門市、小松島市
	活動内容 ・子ども見守り活動(月1～2回) ・自転車、徒歩による防犯パトロール(月1～2回) ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒、街頭犯罪抑止、万引き防止、振り込め詐欺抑止)への参加 ・防犯教室の開催


【香川県】さぬきヤンボラ守るんジャー

	構成員 (167人) 香川大学(71人)、香川短期大学(53人)、高松大学(9人)、四国学院大学(9人) 徳島文理大学(7人)、高松商業高校(18人)
	主な活動地域 高松市、さぬき市、善通寺市、宇多津町
	活動内容 ・スーパー等の駐輪場見回り(月1回、土・日・祝、高松大学) ・子どもの見守り活動(週5回・下校時、香川大学、四国学院大学、高松商業高校) ・ゴールドタワー及び宇多津ビブレ周辺の防犯パトロール(週1回、香川短期大学) ・宇多津駅及び宇多津ビブレ駐輪場見回り(月1回・月末、香川短期大学) ・環境美化活動(年2回、香川短期大学、香川大学) ・他のボランティア団体との合同活動への参加 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加


【愛媛県】大学生ボランティアネットワーク 4 - Rings

	構成員 (50人) 愛媛大学(15人)、聖カタリナ大学・短期大学(15人)、松山大学(10人) 松山東雲女子大学・短期大学(10人)
	主な活動地域 松山市
	活動内容 ・子どもの見守り活動(月1～2回) ・防犯パトロール(月1～2回) ・広報啓発活動(月1回) ・防犯広報(110番の日、みんなの生活展、交流会) ・防犯キャンペーン(安全・安心ふれ愛フェア)への参加 ・清掃活動時の防犯パトロール及び年末特別警戒と連動した防犯パトロール


【高知県】YCPK(若者の防犯ボランティアin高知)

	構成員 (47人) 高知女子大学(26人)、高知学園短期大学(13人)、高知工科大学(4人) 高知大学(4人)
	主な活動地域 高知市、香美市
	活動内容 ・通学路における子どもの見守り活動(月2回) ・防犯パトロール(月2回) ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加 ・他の防犯ボランティア団体との合同活動への参加


【福岡県】ななくま元気にするっ隊

	<p>構成員 (79人) 福岡大学(79人)</p> <p>主な活動地域 福岡市城南区</p> <p>活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・地域防犯ボランティアとの合同パトロール(月2回) ・キャンパス周辺の清掃活動と危険箇所点検(月1回) ・防犯キャンペーン(安全安心まちづくり県民のつどい・年末特別警戒等)への参加 ・警察や自治体による地域安全運動への参加 ・学園祭や地域のイベントを活用した防犯チラシの配布等 ・防犯のための広報支援(機関誌等の作成・配布) ・学校内での防犯意識の啓発や研修会の開催 </p>
---	---


【佐賀県】さがんせん隊 守るんじゃー

	<p>構成員 (36人) 佐賀短期大学(11人)、佐賀大学(10人)、龍谷短期大学(8人) 西九州大学(7人)</p> <p>主な活動地域 佐賀市、神崎市、鳥栖市</p> <p>活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・防犯パトロール(月1回) ・広報啓発活動(3ヶ月に1回) ・危険箇所の点検(3ヶ月に1回) ・環境美化活動(3ヶ月に1回) ・他のボランティア団体との合同活動への参加 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加 </p>
--	---

【長崎県】ヤンガライズ

	<p>構成員 (40人) 長崎大学(28人)、活水女子大学(11人)、県共済組合職員(1人)</p> <p>主な活動地域 長崎市</p> <p>活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの見守り活動(月2回) 登下校時に通学路において、安全確保、声かけなどの活動を行う。 ・徒歩による防犯パトロール(月2回) 夕方(夜間)、子どもの早期帰宅を促すなどを目的としたパトロールなどを行う。 ・広報啓発活動(2ヶ月に1回) ・他のボランティア団体との合同活動への参加 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加 </p>
---	--

【熊本県】防犯若武者ベアーズ

	<p>構成員 (41人) 熊本学園大学(23人)、熊本県立大学(9人)、九州ルーテル学院大学(5人) 熊本大学(2人)、崇城大学(2人)</p> <p>主な活動地域 熊本市</p> <p>活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・徒歩による防犯パトロール(月2回) ・子どもの見守り活動(月2回・下校時) ・広報啓発活動(2ヶ月に1回) ・環境美化活動(3ヶ月1回) ・防犯キャンペーン、イベントへの参加 ・学園祭、地域のイベント、祭りを活用したチラシの配布等 ・大学内での自転車盗難撲滅キャンペーン ・女性安全対策に向けたチラシの作成、配布 ・寸劇、地域安全マップ作成 ・防犯教室への参加、講習会の開催 </p>
---	--

【大分県】大分大学防犯パトロール隊



構成員 (32人)
大分大学(32人)

主な活動地域
大分市

活動内容
 ・徒歩による防犯パトロール(月1回)
 ・子どもの見守り活動(月1回・下校時)
 ・広報啓発活動(1か月に1回)
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(大分県安全・安心まちづくり県民大会、年末警戒パトロール)への参加
 ・学生防犯パトロール隊との交流会への参加

【宮崎県】宮崎県ヤングボランティア協議会



構成員 (100人)
 宮崎産業経営大学(43人)、宮崎国際大学(15人)、宮崎大学(8人)
 九州福祉保健大学(8人)、宮崎学園短期大学(8人)
 南九州大学都城キャンパス(大学)(7人)、宮崎県立看護大学(6人)
 南九州大学宮崎キャンパス(大学・短期大学)(3人)、宮崎公立大学(2人)

主な活動地域
宮崎市、都城市、延岡市

活動内容
 ・防犯パトロール(月1回)
 ・広報啓発活動(月1回)
 ・防犯キャンペーン(年4回実施の地域安全運動期間中に実施)
 ・「地域安全県民のつどい」への参加
 ・大学文化祭等での防犯教室の開催

【鹿児島県】ヤングチェスト隊



構成員 (66人)
 鹿児島大学(29人)、志学館大学(16人)、第一工業大学(8人)
 鹿児島国際大学(3人)、鹿屋体育大学(2人)、
 鹿児島工業高等専門学校(8人)

主な活動地域
鹿児島市、霧島市、鹿屋市

活動内容
 ・徒歩による防犯パトロール(月3回)
 ・子どもの見守り活動(週2回・下校時)
 ・広報啓発活動(2か月に1回)
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動、年末特別警戒等)への参加

【沖縄県】鼓舞楽団浦風パトロール隊



構成員 (47人)
 沖縄国際大学(43人)、沖縄大原専門学校(2人)、浦添市職員(1人)
 会社員(1人)

主な活動地域
宜野湾市、浦添市

活動内容
 ・徒歩による防犯パトロール(月2回)
 ・広報啓発活動(月2回)
 ・他のボランティア団体との合同活動への参加
 ・防犯キャンペーン(地域安全運動 防犯フェアー)、年末特別警戒等)への参加